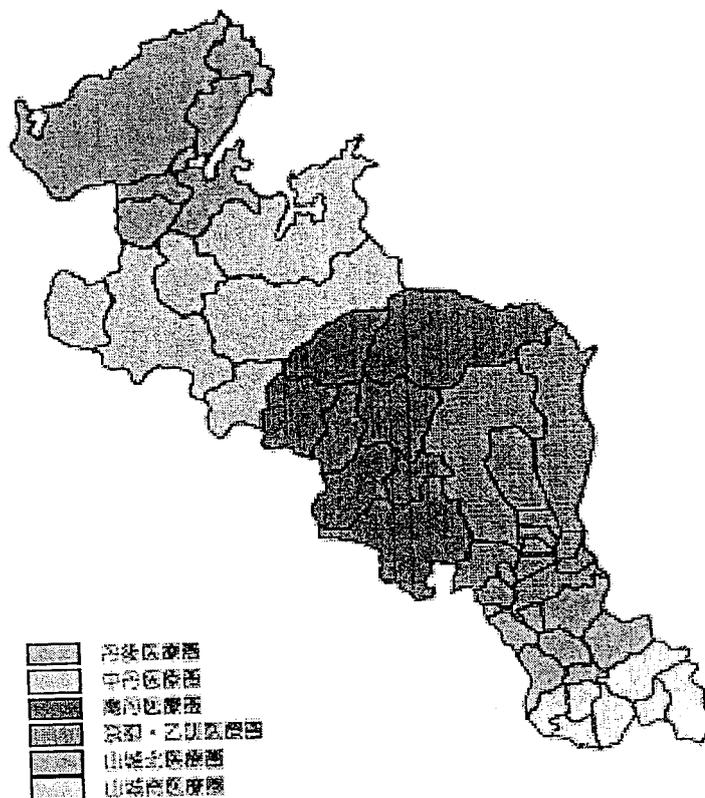


# 京都府 2次医療圏の概要

## 1. 圏域図



## 2. 概要

(平成18年9月1日現在)

医療圏名	面積(km <sup>2</sup> )	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
丹後	844.97	110,184	4.2%	130.4	6		2	2
中丹	1,241.79	210,313	8.0%	169.4	18		1	1
南丹	1,144.28	147,004	5.6%	128.5	10		5	6
京都・乙訓	860.72	1,621,357	61.3%	1883.7	117	1		0
山城北	257.74	445,531	16.8%	1728.6	23			0
山城南	263.43	109,945	4.2%	417.4	3			0
計	4,612.93	2,644,334	100.0%	573.2	177	1	8	9

注1) 「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2) 「人口密度」欄は、各医療圏ごとに、人口/面積(km<sup>2</sup>) (小数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3) 「病院数」欄は、拠点病院以外の病院も含めた数を記入すること。

# 推薦意見書

## 1 基本方針

本府において、がんは昭和52年以来、死亡原因の第一位を占め、平成16年には全死因の32%、全国平均と比較しても高い死亡率となっており、がん対策は喫緊の課題と認識しているところです。

がん死亡を減少させるためには、予防・早期発見・早期治療・適切な治療が重要であり、これまでからの、予防啓発や市町村が行うがん検診への支援等の取組に加え、高度専門医療を有する京都大学及び京都府立医科大学が近隣するという地域実態を踏まえながら、がん医療水準の均てん化に積極的に取り組むべきと考えています。

このため、本府においては、都道府県がん診療連携拠点病院である京都府立医科大学附属病院を核にしながらも、京都大学医学部附属病院については、その特質から、両大学のがん専門家による「京都府がん対策戦略推進会議」を本年11月に設置し、がん診療連携拠点病院の枠を越えた、広域的・専門的な支援をいただくことにしています。

加えて、府域全体にがんの標準的治療を推進するため、今回「地域がん診療連携拠点病院」を二次医療圏毎を基本としながらも、地域性・専門性等に要因を踏まえ、府域全体を網羅する形で整備し、これら医療機関のネットワーク化により、すべての府民が身近な地域で安心して、質の高い、がん医療サービスを受けられる体制を構築し、本府のがん対策を総合的かつ計画的に推進してまいりたいと考えています。

今回、医師会等関係団体とも十分調整したうえで、次のとおり、京都・乙訓医療圏で5医療機関、中丹及び丹後医療圏で2医療機関、南丹圏域で1箇所、合計8機関を推薦いたします。

なお、山城北及び山城南医療圏については、現時点では、指定要件を充足する医療機関がないことから、当面、都道府県がん診療連携拠点病院及び隣接する京都・乙訓医療圏の拠点病院でカバーすることとしますので、よろしくお願い申し上げます。

また、本整備計画につきましては、次年度見直し予定の保健医療計画や健康増進計画、新たに策定するがん対策推進基本計画にも位置づけることとしています。

## 2 京都府の二次医療圏について

面積、人口等の概要については、別紙のとおりです。

### 1) 京都・乙訓医療圏について

京都・乙訓医療圏は、政令市である京都市を包含し、面積は府の18.7%(約860km<sup>2</sup>)ですが、人口は府全体の61%(人口約162万人)、医療機関は府全体の66%、一般病床300床以上の医療機関は両大学を含め全体の73%を占めるなど、全国でも他に例のない人口構成、高度医療機関の集中化しているところです。

本医療圏のがん死亡率(標準化死亡比)は、男女とも、府平均(男102.6、女104.2)を大きく上回って(男105.6、女109.3)いることから、とりわけ、地域がん診療連携拠点病

院の選定にあたってはきめの細かい整備が必要と考えており、地域保健法が謳う標準的な二次医療圏人口（概ね30万人）を基準に、地域性や交通網、住民の受療動向等を鑑み、次の3ブロックを設定、また、機能的役割分担も考慮したうえで、がん医療の先駆的・中核的な役割を担う地域の中核病院として、京都第二赤十字病院、京都第一赤十字病院、国立病院機構京都医療センター、京都市立病院、京都桂病院があります。

これら医療機関については、国のがん診療連携拠点病院の指定要件を充足していると考えられるとともに、がん医療の水準も高く、地域がん診療連携拠点病院の中でも、指導的役割として担える医療機関であり、地理的および機能的役割分担を踏まえ、今回推薦するものです。

#### ＜地理的役割分担＞

人口集中地区であり、道路交通網・公共交通機関とも発達、京都府南部地域や滋賀県からの通勤・通学も至便な状況にあり、昼間の人口流入も多く、受診状況に影響を与えていることから、患者の利便性、地域診療所との連携等の面から考慮し、圏域内エリア別に担当することによりがん医療体制の構築を図ることとします。

#### ＜機能的役割分担＞

がん専門医療機関が多数存在しているが、それぞれの医療機関が得意とする分野を最大限活用し、機能的役割分担・相互連携を図りながら、医療圏域内のがん医療提供体制を推進することとします。

### ① 京都市北部ブロック（北区・上京区・左京区、人口約37万人）

#### ＜京都第二赤十字病院＞

- ・がん全般にわたり高い治療実績・・・年間約2,400件
- ・平成16年8月から新館移転に伴う病院全面改修工事を実施しており17年度実績はやや少なめ
- ・とりわけ、人間ドック等を活用した早期診断・早期治療のため、内視鏡下消化管手術の分野での実績が高い・・・1,079件
- ・消化器系がんのほか、泌尿器系がんで実績が高い
- ・地域のかかりつけ医との連携も強く（紹介率70%、逆紹介率40%）、府内第一号の地域医療支援病院の承認（H18.4.1付け）を受けている。

### ② 京都市東部ブロック（東山区・山科区・伏見区、人口約46万人）

#### ＜京都第一赤十字病院＞

- ・東山区住民を主に、がん全般にわたり高い治療実績・・・年間約3,500件
- ・とりわけ消化器系がん、婦人科系がんの実績が高い。
  - 消化器系がん・・・1,245件（17年度実績）
  - 婦人科系がん・・・390件（17年度実績）
- ・チーム医療を原則とし、内科・外科・放射線科・病理の合同検討会を定期的に行い、最適治療方針を決定しながら対応。このため、クリティカルパスは8月1日現在70疾患148種類に及び、本院患者の25%はパス適用患者。現在地域連携パス導入に向け、地区医師会合同研修会の開催など準備中。
- ・特に、化学療法は、化学療法クリニカルパスの整備、がん化学療法看護認定看護師の専属配置などにより外来化学療法体制を充実。

### <国立病院機構京都医療センター>

- ・伏見区・山科区住民を主に、年間約3,000件のがん治療実績がある。
- ・とりわけ、消化器系がん、肺がん、泌尿器科系がんの実績が高い。
  - 消化器系がん・・・1,374件（17年度実績）
  - 肺がん・・・512件（17年度実績）
  - 泌尿器科系がん・・・312件（17年度実績）
- ・がん薬物療法専門医をはじめとする専門医だけでなく、がん認定看護師も多く配置されコメディカルスタッフの充実にも力を注いでいる。
- ・セカンドオピニオン外来は、平成17年5月から専用窓口を設置し、患者・家族への情報提供を積極的に取り組んでいる。

### ③ 京都市西部及び乙訓ブロック（中京区・下京区・南区・右京区・西京区、向日市・長岡京市・大山崎町 人口約78万人）

#### <京都桂病院>

- ・西京区・右京区及び乙訓（向日市・長岡京市・大山崎町）住民を主に、年間約3,000件のがん治療実績がある。
- ・特に、肺がん治療においては、府内一の実績・・・877件（17年度実績）  
肺がん対策として、早期から予防のための禁煙指導や、平成7年よりミリガンを発見するため肺がんドックも開始。
- ・消化器系がんについては、年間約14,000件の内視鏡検査により病変発見し、内視鏡下粘膜切除術により早期治療を実施・・・593件（17年度実績）
- ・専門医はもちろん、がん専門薬剤師、化学療法に精通した薬剤師の育成に力を入れ、「がん専門薬剤師研修事業・研修施設」になっている。

#### <京都市立病院>

- ・中京区・下京区及び乙訓（向日市・長岡京市・大山崎町）住民を主に、がん治療全般に対応し、年間約2,200件のがん治療実績がある。
- ・とりわけ血液がんや小児がんを中心に取り組んできており、「骨髄移植推進財団」並びに「日本さい帯血バンク」の認定施設として、難治性の白血病等に対する造血幹細胞移植を実施する他、HLA不一致移植にも対応。
- ・放射線治療に力を入れ、ライナック、腔内照射X線装置を備え、婦人科系がんおよび消化器系がんでは実績をあげている。19年度には前立腺がん永久挿入密閉小線源治療装置を導入し、急増中の前立腺がんへの対応を強化。
- ・本府が実施する地域がん登録事業実績は府内一。今後、各拠点病院における院内がん登録の分析・評価等の大きなサポート機関になることを期待。

これらの5医療機関については、とりわけ各医療機関が得意とする分野について機能的役割分担と相互補完し連携を強化する中で、圏域内医療水準の向上を図るとともに、都道府県がん診療連携拠点病院である府立医科大学と連携して、山城北及び山城南医療圏のがん医療水準の均てん化に努めることとします。

### 2) 中丹及び丹後医療圏について

中丹及び丹後医療圏の人口は府の12.0%（約320千人）ですが、面積は府面積の2分の1弱を占め、約2,087㎡と府内最大となっています。

中丹医療域内は、主要道として国道27号線、公共交通機関としてJR舞鶴線がありますが、

他には主要な交通機関がないこと、冬期においては降雪量も多く（1～2桁）、たびたび道路は寸断されることなどから、舞鶴市（約9.2万人）－福知山市（約8.2万人）相互間は患者の流入が1～5%内に留まっています。また、舞鶴市においては主要地方道176号線を通じ丹後圏域から約10.6%、福井県から、9.3%の患者流入があります。

このため、地理的・機能的要因を踏まえ、国の示すがん診療連携拠点病院の指定要件を充足し、おのおのの地域の中核としてふさわしい役割を期待できる、次の2つの医療機関を推薦するものです。

#### <福知山市民病院>

- ・隣接する兵庫県からの流入患者もあわせ、がん診療全般に対応・・・年間約850件
- ・とりわけ、肝がん・乳がんに対応。
- ・北部の血液・造血器悪性腫瘍のほとんどに対応。
- ・地域の医療機関との共同受診カードを作成し、地域連携を推進。
- ・がん認定看護師の配置等コメディカルスタッフの充実に力を注いでいる。
- ・病棟全面改築（15年8月－18年3月、6月移転）のため、17年実績はやや少なめ。
- ・改築に伴い、放射線治療装置を充実。種類・台数ともに、京都・乙訓医療圏の医療機関に匹敵できるものを備え、質の高いがん治療を提供しており、隣接する丹後医療圏患者の放射線治療の約半数を担っている。

#### <国立病院機構 舞鶴医療センター>

- ・舞鶴市民を中心に、丹後医療圏及び隣接する福井県からの流入患者をあわせ、がん診療全般に対応・・・年間約850件
- ・とりわけ、泌尿器系がんや肺がんに対応。肺がんではマルチスライスCTを用いた検診を実施し、治療も呼吸器内科・外科による専門チームで実施。
- ・また、府内で唯一の「医学物理士」を有し、放射線装置等の管理等にも配慮した治療を展開し、隣接する丹後医療圏患者の放射線治療も担っている。
- ・特に、従前から先駆的・積極的に取り組み、13年3月に導入したハイパーサーミアをがん末期患者の侵襲の少ない緩和療法の一つとして利用するなど、その治療内容の充実を図っている。

これらの2医療機関については、とりわけ各医療機関が得意とする分野について機能的役割分担と相互補完し連携を強化する中で、圏域内医療水準の向上を図るとともに、都道府県がん診療連携拠点病院である府立医科大学と連携して、中丹及び丹後医療圏域のがん医療水準の均てん化に努めることとします。

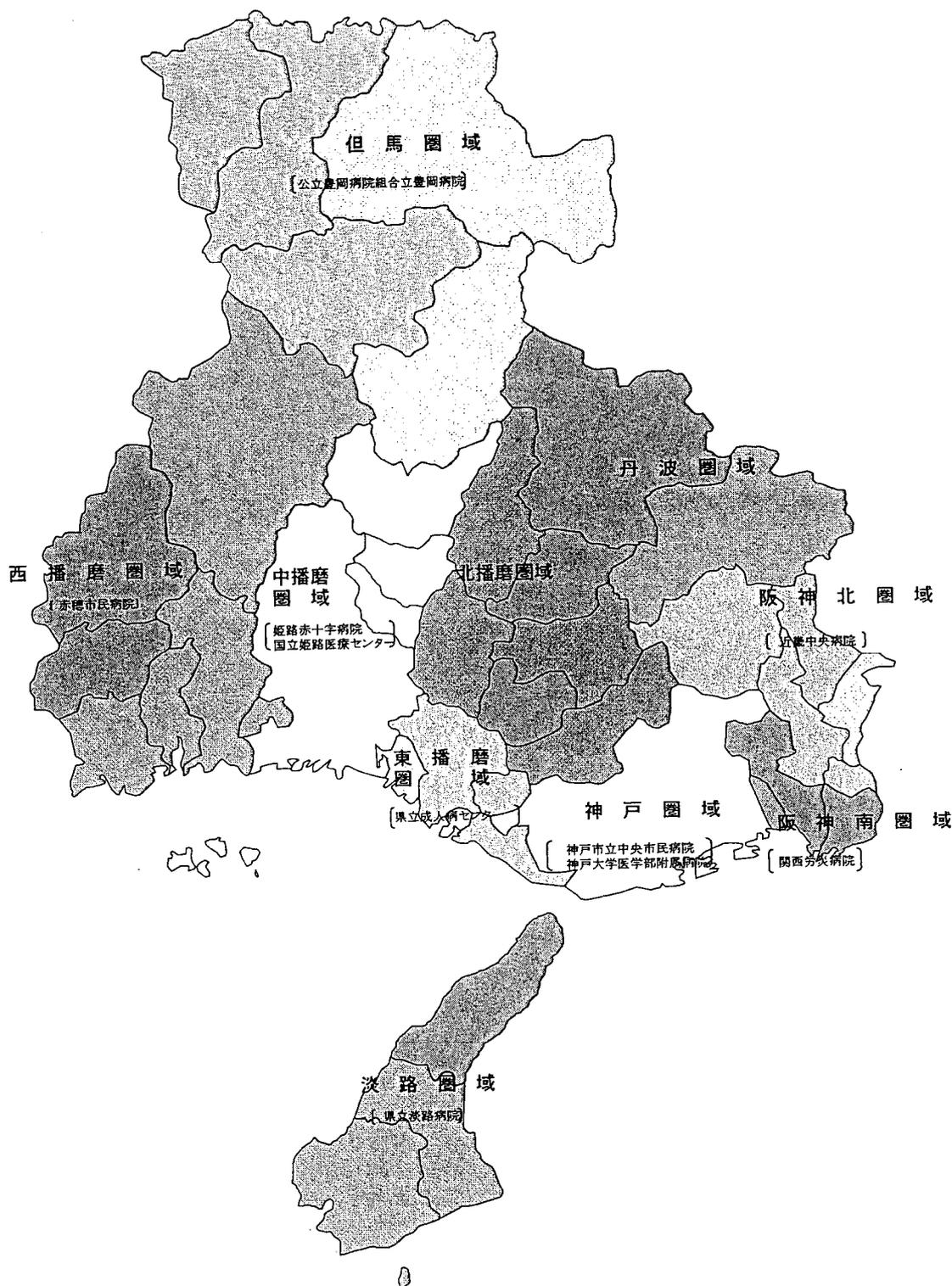
### 3) 南丹医療圏について

南丹医療圏については、医療圏域内に放射線治療を有する医療機関がないことから、隣接する京都・乙訓医療圏、中丹医療圏の地域がん診療連携拠点病院と連携を図り、医療水準を維持するとともに（別紙参照）、緩和医療や院内がん登録など国の示すがん診療連携拠点病院の指定要件を充足し、地域連携の拠点としてふさわしい医療機関を1箇所推薦します。

なお、推薦する公立南丹病院については、消化器系がんを中心に、地域住民のがん全般に対応し、地域に密着した医療機関として南丹医療圏の主軸機能を果たしている医療機関です。

兵庫県 2次医療圏の概要

1. 圏域図



2. 概要

(平成18年3月1日現在)

医療圏名	面積(km <sup>2</sup> )	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
神戸	552.02	1,526,844	27.3	2,765.9	107	0	〈2〉	〈2〉
阪神南	167.64	1,020,784	18.3	6,089.1	52	0	〈1〉	〈1〉
阪神北	480.98	714,170	12.8	1,484.8	34	0	〈1〉	〈1〉
東播磨	266.20	718,080	12.8	2,697.5	41	0	〈1〉	〈1〉
北播磨	895.56	291,260	5.2	325.2	21	0	0	0
中播磨	804.76	578,266	10.3	718.6	41	0	〈2〉	〈2〉
西播磨	1627.53	285,701	5.1	175.5	24	0	〈1〉	〈1〉
但馬	2133.50	190,642	3.4	89.4	14	0	〈1〉	〈1〉
丹波	870.89	115,597	2.1	132.7	8	0	0	0
淡路	595.84	150,767	2.7	253.0	12	0	〈1〉	〈1〉
計	8394.92	5,592,111	100.0	666.1	354	0	10	10

注1)「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2)「人口密度」欄は、各医療圏域ごとに、人口/面積(km<sup>2</sup>)(少数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3)「病院数」欄は、拠点病院以外の病院も含めた数を記入すること。

注4)「今回推薦病院」欄は地域がん診療連携拠点病院を都道府県がん診療連携拠点病院へ指定変更する場合には、( )書きで、指定更新の場合に( )書きで、内数を示すこと。

## 5 地域型がん診療連携拠点病院について

本県は、「第1回 がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」の議論を踏まえ、次の方針に基づき、推薦病院を選定しました。

- ① 「必須」指定要件を具備していること。
- ② 2次医療圏域において複数の医療機関を推薦する場合は、拠点病院間で機能的な役割を分担できること。

今回、推薦する地域型拠点病院及び指定要件具備状況は次のとおりです。

圏域名	医療機関名	緩和ケア	相談支援体制	院内がん登録	腫瘍センター	年間新入院がん患者数 (平成17年度)
神戸	神戸大学医学部附属病院	○	○	○	○	2,433人
	神戸市立中央市民病院	○	○	○	—	2,903人
阪神南	関西労災病院	○	○	○	—	3,238人
阪神北	近畿中央病院	○	○	○	—	1,018人
東播磨	県立成人病センター（再掲）	○	○	○	—	3,824人
中播磨	姫路赤十字病院	○	○	○	—	4,520人
	国立病院機構姫路医療センター	○	○	○	—	3,904人
西播磨	赤穂市民病院	○	○	○	—	1,084人
但馬	公立豊岡病院	○	○	○	—	1,412人
淡路	県立淡路病院	○	○	○	—	1,644人

なお、今回推薦していない圏域については、指定要件の具備状況等を精査した上で、次回以降の検討会に推薦することとしています。

### (1) 神戸圏域

神戸圏域では、「神戸大学医学部附属病院」及び「神戸市立中央市民病院」を推薦します。

神戸圏域の人口は150万人を超える本県でもっとも人口の多い圏域です。東西に細長い地域で、東南部は旧市街地に加え、ポートアイランド、神戸空港などの人工島を造成した新市街地を形成しています。一方、北・西部では大規模なニュータウン開発が進み、神戸市営地下鉄沿いに市街地が形成されています。

今回推薦する両病院とも必須指定要件を具備しており、また、新入院がん患者数も年間2千人を超える病院です。

がん患者の通院圏域から分析すると、下表のとおりとなります。両病院とも他圏域、他府県からの受療実績もあるなど本県で有数のがん医療提供病院です。

項目	神戸大学医学部附属病院	神戸市立中央市民病院
地域分担	北部・中央（西側）地域	東部・中央（東側）地域
	・入院・外来患者の約7割が神戸市北区、兵庫区等圏域北部・中央（西側）地域から受け入れている。	・入院・外来患者の約6割が神戸市中央区、東灘区等圏域東部・中央（東側）地域から受け入れている。

なお、両病院の特徴は下表のとおりです。

項目	神戸大学医学部附属病院	神戸市立中央市民病院
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「肝切除と経皮的肝灌流化学療法」の2段階治療」など肝臓がん分野で本県のがん治療の重要な役割を担っている。</li> <li>・放射線治療をはじめとする他の圏域の多くの病院との連携実績</li> <li>・特定機能病院の研修機能を活かした専門医の育成</li> <li>・他の拠点病院との連携強化による高度先進医療の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先端医療センターにおける増幅臍帯血の臨床研究協力病院となるなど白血病分野で本県のがん治療の重要な役割を担っている。</li> <li>・平成22年度を目標とする「新中央市民病院基本構想」に「がんセンター」の設置や先端医療センターとの連携強化を打ち出すなどのがん医療の充実</li> </ul>

## (2) 阪神南圏域

阪神南圏域では、「関西労災病院」を推薦します。

本圏域の人口は100万人を超え、神戸圏域に次いで人口の多い圏域です。圏域中央部に武庫川が流れており、武庫川を境に東西に別れています。この圏域は昨年、アスベストによる健康被害が明らかになった尼崎市の属する圏域であることから、中皮腫に関する医療相談等の充実を求められる地域でもあります。

今回推薦する関西労災病院は、必須指定要件を具備し、年間新入院がん患者数は3千人を超える病院で、「アスベスト疾患センター」の設置、中皮腫とアスベストばく露の因果関係の究明、早期診断方法の確立等の研究に取り組むなど、豊富な中皮腫の診療実績による十分な相談支援機能を発揮することができます。

## (3) 阪神北圏域

阪神北圏域では、必須指定要件を具備し、年間新入院がん患者数が1,200人にもっとも近い「近畿中央病院」を推薦します。

(4) 東播磨圏域

東播磨圏域では、都道府県型として県立成人病センターを推薦しています。

(5) 中播磨圏域

中播磨圏域では、「姫路赤十字病院」と「国立病院機構姫路医療センター」を推薦します。

中播磨圏域の北部は中国山地を形成し、南部は瀬戸内海に面しており、臨海部には播磨工業地帯を形成しています。姫路城を中心に市街地を形成し、圏域東側に市川、圏域西側に夢前川が流れています。

今回推薦する両病院とも、必須指定要件を具備し、年間新入院患者数も「姫路赤十字病院」が4,520人、「国立病院機構姫路医療センター」が3,940人と実績を有する病院です。

がん患者の通院圏域を分析した結果は下表のとおりです。

項目	姫路赤十字病院	国立病院機構姫路医療センター
地域分担	西部地域 ・入院・外来患者の約7割が圏域西部地域を縦断する夢前川と平行して走る「姫新線」沿線の患者である。	東部地域 ・入院・外来患者の約8割が圏域東部地域を縦断する市川と平行して走る「播但線」沿線の患者である。

なお、両病院の特徴は下表のとおりです。

項目	姫路赤十字病院	国立病院機構姫路医療センター
特徴	・胃・大腸がんの外科手術件数が多く、本県のがん治療分野で重要な役割を担っている。	・肺がんの外科手術件数が多く、本県のがん治療分野で重要な役割を担っている。

(6) 西播磨圏域

西播磨圏域では、必須指定要件を具備し、年間新入院がん患者数が1,200人にもっとも近い「赤穂市民病院」を推薦します。

本圏域は東西43km、南北67kmに及び、但馬圏域に次ぐ広大な圏域で、本県の約5分の1にあたる面積を有しています。圏域を南北に縦断する千種川沿いに、その南端に位置する赤穂市に向かって市街地が形成されています。例えば、北部の宍粟市から中心部である赤穂市に出向くのに2時間もの時間を要します。このため、かかりつけ医等に対する緩和医療等の研修、がんに関する相談支援機能の充実等を図る観点から拠点病院の整備が必要であると考

えています。

#### (7) 但馬圏域

但馬圏域では、必須要件を具備し、年間新入院がん患者数が1,200人を超えている唯一の病院である「公立豊岡病院組合立豊岡病院」を推薦します。

本圏域の面積は2,133km<sup>2</sup>を超え、その広さは東京都の総面積に匹敵する広大な地域であり、また、日本海型気候で冬期はシベリアからの北西の季節風の影響を受けて降雪量の多い地域です。また、医療資源の比較的乏しい地域であり、他の圏域への交通アクセスも悪く、当該圏域の身近な医療機関で質の高いがん医療を受けることが求められています。

#### (8) 淡路圏域

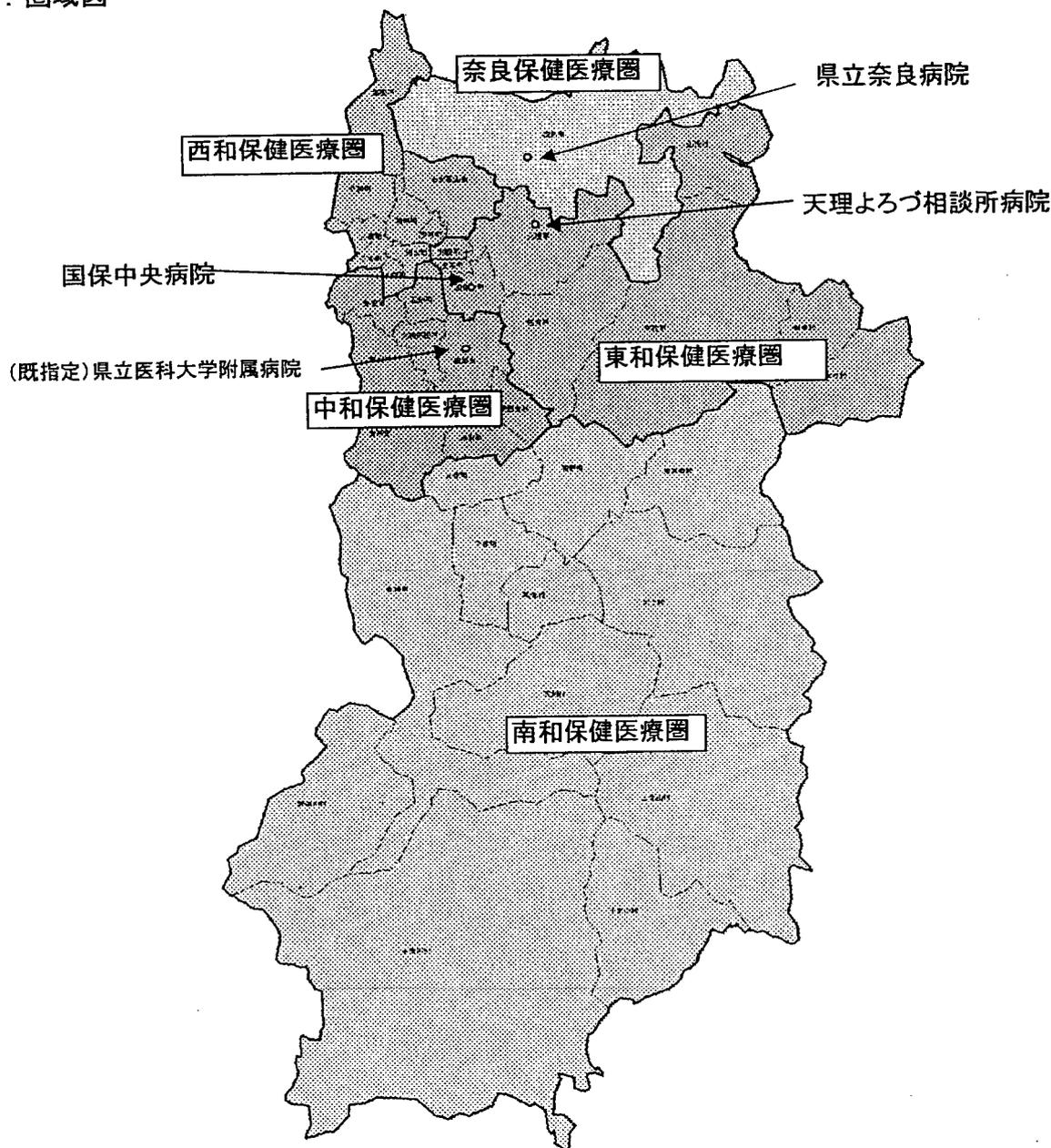
淡路圏域では、必須要件を具備し、年間新入院がん患者数が1,200人を超えている唯一の病院である「県立淡路病院」を推薦します。

本圏域である淡路島は瀬戸内海国立公園の東部に位置し、南北55km、東西28km、周囲203kmの細長い島です。全体が島部で医療資源の比較的乏しい圏域であり、他の圏域への交通アクセスも悪く、当該圏域の身近な医療機関で質の高いがん医療を受けることが求められています。

以上、本県が地域型拠点病院として推薦します各病院をご指定願います。

# 奈良県 2次医療圏の概要

## 1. 圏域図



## 2. 概要

(平成18年9月1日現在)

医療圏名	面積(km <sup>2</sup> )	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
奈良医療圏	276.84	368,989	26.05	1,332.9	22		1	1
東和医療圏	658.05	227,347	16.05	345.5	13		2	2
西和医療圏	168.57	351,164	24.79	2,083.2	19			
中和医療圏	240.80	380,692	26.88	1,580.9	18	1		1
南和医療圏	2,346.83	88,131	6.22	37.6	6			
計	3,691.09	1,416,323	100.00		78	1	3	4

注1) 「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2) 「人口密度」欄は、各医療圏ごとに、人口/面積(km<sup>2</sup>) (小数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3) 「病院数」欄は、拠点病院以外の病院(診療所は除く)を含めた数を記入すること。

## 2). 国保中央病院（東和保健医療圏）

国保中央病院は、平成5年4月に川西町、三宅町、田原本町、広陵町の4町によって設立された東和保健医療圏に所在する自治体立病院です。220床を有するこの地域の基幹病院であるとともに、うち20床は平成17年5月にオープンした本県唯一の末期患者等のための緩和ケア病棟（設立後1年間の入院患者数は延べ153名・平均在院日数25.1日）を有していることから、特に緩和ケアの充実に努めています。

国保中央病院のがん患者の受け入れ支援や共同診察、支援等については県内161ヶ所の医療機関と連携し、常駐医師2名・看護師16名を中心とした緩和ケアチームに対する新規診療依頼は過去3ヶ月間で14件（診療回数延べ40回余り）にのぼり、また緩和医療に関する研修会を院内外の医療従事者向けに開催する等、本県における緩和ケア医療の中心的な役割を果たしております。緩和医療の提供が「がん診療連携拠点病院」における重要な柱の一つであることや緩和ケア分野におけるチーム活動及び研修体制等の充実性を考慮し、この地域の「地域がん診療連携拠点病院」としての役割を担うべき病院であると考えます。

## 3). 天理よろづ相談所病院（東和保健医療圏）

天理よろづ相談所病院は、815床・24診療科目を持つ県内屈指の病院であり、35の学会に加盟し、臨床研修指定病院であるほかに専門医制度認定医になるための修練施設としても41の学会等から指定を受けています。ひと月の外来患者数は延べ約44,000人余（うちがん患者は約5,600人）、在院患者は延べ約21,000人（うちがん患者は約340人）を数え、国内各地はもとより海外からの受診者も少なくなく、地域の基幹病院としての役割を担っています。がん治療としては放射線科を中心にリニアックによる頭部の定位放射線治療や躯幹部（肺）の三次元治療、放射線IMRT技術を導入した頭頸部癌、前立腺癌の臨床応用等、高度な放射線治療機器を活用できる体制が整っており、専門的ながん治療に携わる医師の研究活動やホスピスケア認定看護師による講演活動等も活発に行われています。これらの診療・研修体制を考慮し、がん治療における本県の中核的な病院の一つとして位置付けられることから「地域がん診療連携拠点病院」としての指定にふさわしい病院であると考えます。

## Ⅲ. 同一保健医療圏から2病院の推薦を行うことに関する見解

今回、東和保健医療圏におきまして2病院の推薦を行っています。

東和保健医療圏には県面積の63.6%、人口の約6.2%を占める南和保健医療圏が隣接しています。南和保健医療圏の圏域は紀伊半島中心部にあたり、大部分が近畿の屋根と呼ばれる広大な山岳地帯であることから、人口、病院などの医療資源は他の2次保健医療圏に分散しており、現在この地域にがん治療の中核となる医療機関は存在しません。

本県としては、がん患者が居住する地域にかかわらず、質の高いがん治療を受けることができる体制を確保するため、今回推薦する東和保健医療圏の2病院のそれぞれの機能を生かし「がん診療連携拠点病院」として隣接する南和保健医療圏のがん医療を補完する体制を確立することを考えております。